

農産物がつくられているのはどんなところ？

～ 地場農業とつながるわたしたちの生活 ～

小学生 向け
まちづくり



ねらい

- ☑ 「フードマイレージ買物ゲーム」を通して自分の買物行動が農業や環境問題と関係していることを知る。
- ☑ 地場の農業についてどのような農産物がどこでいつ作られているかを知る。
- ☑ 農家の人の話を聞いて、農作業の大変さ、農業に対する思い、誇りを知る。
- ☑ 過去と現在の農業を比較することで地場の農業の抱える問題を理解する。
- ☑ 農産物の生産、流通、消費に至るプロセスを学習することで、自分たちに何ができるかを考え、今後の生活の中で実行しようとする。

イベントのすすめかた

① フードマイレージ買物ゲーム

「フードマイレージ買物ゲーム」で日々の買物、食事が地域の農業とつながっていることを実感する。

② 市内で作られている農産物

市内のどこで、どんな農産物がいつ、作られているかを知る。

③ 農地の見学と農業の体験

地場で農業をしているところに行って、農地のある風景を見たり、農家の人から農業の大変さや楽しさを聞いたりする。野菜収穫の体験をしたり、アイガモ農法などの新しい農業の方法を教してもらったりする。

④ 地場農業と私たちの生活のつながり

地場の農業について感想を話し合う。1970年と2005年の市の地図を比較して農地が減って、かわりに宅地や倉庫、ショッピングセンターにかわっていることを知る。農家から市場を経由して小売店に農産物が運ばれて、それを私たちが買いに行くプロセスを理解する。そのうえで、自分たちにどんなことができるかを話し合い、発表する。



- ◆ 「フードマイレージ買物ゲーム」では地産地消の行動の必要性を学ぶことができるが、店舗に行ったときに地場の農産物がいつもならんでいるとは限らない。そこで、地場の農業が抱える問題、担い手不足、高齢化を実感するために、見学や体験と組み合わせる。
- ◆ 現在だけではなく過去と比較することによって、農業の抱える問題を知ることができる。そのうえで、それらの問題を解決していくためには、地域計画、流通、消費など社会全体で取り組む視点を養う。



参加者の声



これからなるべく茨木でとれたものを自転車か徒歩で、買いに行くようにしたいと思った。

いろいろな人が、私たちのために安心して食べられるものを朝早くから作ってくれていることがうれしかった。

給食で茨木の農産物が使われているのをはじめて知った。

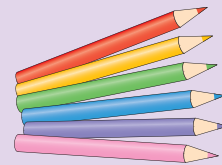
私たちは、社会といろいろなところにつながっていると思った。

専業農家がとても少なくおどろいた。

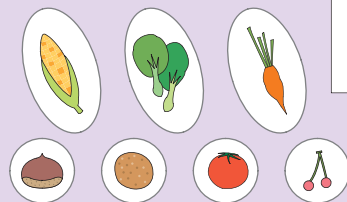
農家の人たちは、大変だということがわかった。



より効果をあげるツール



色鉛筆・ワークシート
農産物シール



市内の白地図
(1970年/2005年)

